

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2012.09.No181

9月号

目次

応急危険度判定制度について……1
特集 平成23年度 北海道ホレンガ建築賞 受賞作品 箱館奉行所……2
道士会の動き……4
実行委員会報告……5 [情報・まちづくり]
青年・女性の怒……6 [青年委員会]
支部だより……7 [富良野・石狩・日高]
information……8

URL <http://www.h-ab.com/>

応急危険度判定制度について

応急危険度判定制度検討部会 部会長 牛田 健一

昨年6月に、士会関係の仲間7名で宮城県の「東日本大震災」被災地を視察してきました。



2011.6 被害報告会 仙台市

視察後、地元士会員からの被害報告時に「どうして応急危険度判定の手伝いに来てくれなかったのですか？」と聞かれ、「えっ、国や道を通じての派遣要請が来ていないので、来る事が出来なかったと思っていました」。すると「ボランティアの判定士も来ていたし、地元の士会員は自宅が被災して片付けも出来ない状態で、判定活動を続けていましたよ」と、士会仲間が苦労しながら判定活動を行っていた事を聞かされ、震災後に何かしなくてはと思いつながら何も出来なかった自分を深く反省しました。

地震が発生した時の応援態勢をきちんと整えないと、自分達にも同じ苦労が起きる事が考えられます。道士会で設定している現行の応急危険度判定支援制度では有効に動く事が難しく、制度の改正が必要と思ひ検討部会の設立を認めて頂きました。

今年から始めた部会では、現行の問題点、対応策、今後の連絡体制について検討を行っております。

折しも、道が中心となって進めてきた「北海道震災建築物応急危険度判定連絡協議会」では、官庁の職員主体で行ってきた判定支援業務に、今後は民間判定士の協力も仰ぎ進める方向へと変わってきました。

今回は建築士会が中心となり、建築士会会員の判定士による制度の確立を進める予定です。

支援項目としては、応援判定士の派遣と、実施本部の業務担当者の派遣を想定しています。

道内で震度5弱以上又は道外で震度6以上の地震が発生した時には、状況の把握、連絡等の準備態勢をとる事を考えています。

応急危険度判定が実施される時には、建築士会から派遣する応援判定士の名簿を整理し派遣を行います。その際に必要な宿泊・食事の調達を行い、移送手段の確保までを行う予定です。

経費の負担が問題になると思われますが、支援要請に基づく派遣については後日公的費用による支援は有りますが、派遣時の費用や、道内で地震が発生し建築士会として早々に派遣を行う場合等の費用について建築士会として準備が必要になり、今後の予算措置や基金の設立等が必要と思います。

体制を整えるだけでは十分ではありません。常日頃から意識を持ち、訓練を行う必要もあります。



2012.2 雪中での判定訓練 東川町

今後は会員の皆様に判定士として登録をお願いする事になります。何時地震が来るか解りませんが、自分や家族、地域、社会を守るために、応援判定士として登録をお願い致します。

平成23年度 北海道赤レンガ建築賞受賞作品

箱館奉行所



審査講評

北海道赤レンガ建築賞 「箱館奉行所」

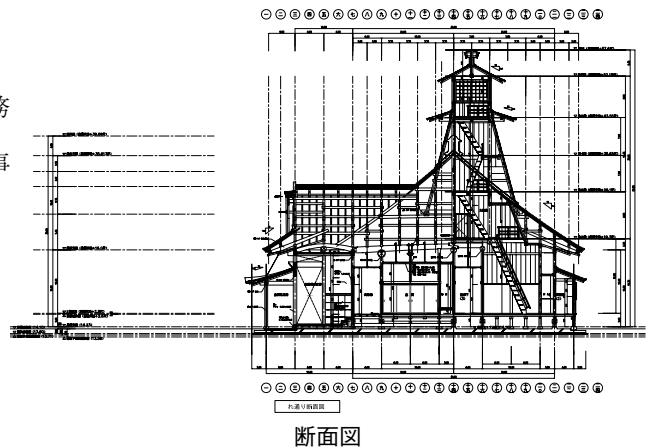
箱館奉行所は、江戸幕府が箱館開港に伴って開設した外交と蝦夷地統治の拠点だ。開設当時の建設場所は現在の元町公園だったが、来港する諸外国軍艦からは無防備な位置に建つことから、より内陸への移転が決定した。こうして現在の地に星形土塁に囲まれた奉行所として完成したのは1864年の事だ。その後、大政奉還や箱館戦争を経て、1871年には札幌に開設される予定の開拓使本庁舎の材料とするために解体されてしまい、僅かな期間しか存在しなかった建築だ。中心施設を失った後も、五稜郭自体は大正時代初期から積極的に桜を植樹し、市民公園として長く親しまれて来た。この五稜郭跡は国の特別史跡指定も受けており、その歴史的文化的重要性をより強化し、誇りある財産として後世に伝えるためには奉行所の復元が必須であると、立案計画され実行されたことにまずは敬意を払いたい。

復元に際しては、建設ときに撮られた小さな写真、仕様が記された文献や絵図面など僅かに残された資料を手掛かりとした。史跡ゆえに大切に残された基礎の遺構が発掘され、絵図面と照合して平面構成と規模が確定された。そして、写真撮影の位置を割り出し、写真に写った瓦の枚数と出土した遺物の瓦サイズを照らし合わせ、現地に実物大模型を建て、高さやプロポーションを確定した。このように多様な時代考証を重ねても、具体的な構法や仕上げ材を確認する躯体部分は残されておらず、意匠などの詳細図面や資料はない。そのことは、たとえ全国にある同時代同機能の諸施設を参考にしても、復元には余りある推測の世界があったに違いない。そこに建築における創造的行為が付加されたからこそ、新築当時の建築を越えるような高い質の空間を得たとも言えよう。このように現代技術を駆使した伝統的工法と材料によって復元された建築遺産が持てたのは極めて意義深く、北海道の建築創造活動の促進に寄与したと言え、建築が持つゆるぎない力、あるいは永続性を示した。

開拓以来の歴史遺産は道内に多数散在するが、函館は特にその集積が高い。建築に関しても、丁寧な維持、修繕やダイナミックな再生再利用の好例が多い。そして今日、この奉行所が再建復元されたことは、函館が持つ文化の厚みを大いに増したことになる。市民にとって、五稜郭が花見と野外劇の舞台としてだけではなく、質の高い伝統的建築物に触れる場所を得たのは幸運なことだ。ここに、市民にとってのみならず、北海道内の建築、観光、教育、文化の各界に広がる地域建築として評価し、北海道赤レンガ建築賞を贈る。

(北海道赤レンガ建築賞審査委員長 大野 仰一)

- 作品名 箱館奉行所
 - 建築主 函館市
 - 設計者 株式会社文化財保存計画協会
 - 施工者 竹中工務店・加藤組土建・石井組・野辺工務店・明匠建工
- 特別史跡五稜郭跡内箱館奉行所庁舎復元工事
共同企業体
(代表者)株式会社竹中工務店 北海道支店
- 建築物の概要
- 所在地 北海道函館市五稜郭町1番1
ほか
- 主要用途 資料館
構造及び階数 木造平家建て
(一部太鼓櫓は5層)
- 建築面積 1,033.38㎡
述べ面積 979.40㎡
竣工年月日 2010年6月30日



□企画の特徴 (地域との関わりなど、特に配慮した点)

箱館奉行所は、幕末の箱館開港により、蝦夷地統治などを行うために設置された役所であるが、戊辰戦争最後の戦いとなった箱館戦争後ほどなく解体され、五稜郭跡郭内には兵糧庫1棟のみが残された。このため函館市では、北海道唯一の特別史跡である五稜郭跡を後世に継承していくとともに、箱館奉行所を設置した史実を踏まえ、史跡整備を進めることで、五稜郭本来の歴史的・文化的価値を高め、市民や観光客に広く公開するため、奉行所の復元に取りかかったものである。

□設計の特徴

奉行所の復元にあたっては、遺構確認発掘調査、古写真・古文書の解読、図書館に残る設計図などの図絵などを詳細に調査した結果を基にしている。この分析の成果により、柱や壁などの建築材料を可能な限り当時の状態に近づけるようにし、忠実に再現している。

史跡整備に際しては、当初より、歴史・造園・建築などの専門家からなる特別史跡五稜郭跡保存整備委員会を設置し、発掘の調査結果や古図面、文献資料を検証しながら進められた。

□施工の特徴 (工法の特徴、施工上の配慮、工夫等)

奉行所は、かつて建っていた位置の真上に復元されているが、遺構を保護するために土盛りをした上で、復元建物の基礎となる厚さ約25センチのコンクリート耐圧版を設置した。

また、幕末に箱館奉行所を撮影した古写真が残っており、建物外観の形状を復元するうえで重要な根拠となり、復元にあたっては、古写真の画像解析を行って、瓦の枚数や軒の反りなどを読み取った。

復元にあたっては、特別史跡五稜郭跡保存整備委員会のほかに下部組織として古建築の専門家による建築専門部会を設置、工事期間中も適宜協議を行い、指導・助言を得ながら工事を進めていった。

復元工事中は5回にわたって工事現場の一般公開を実施し、伝統的木造軸組工法や手斧掛けなどの実演のほか、塗り壁の体験や大工道具の展示を行い、古建築の復元の様子を身近に感じてもらった。

□完成後の地域への貢献度等

箱館奉行所では平成22年7月の開館以来、予想を上回る数多くの市民や観光客が来館しており、建物や五稜郭の特徴を活かした事業を展開し、ふるさと函館についての理解を深めさせ、生涯学習の充実や函館地域の活性化に寄与している。



切目縁



四之間から一之間



玄関・玄関式台

平成24年度応急危険度判定認定講習会のご案内

平成7年の阪神・淡路大震災において我が国で初めて実施された応急危険度判定ですが、この度の東日本大震災においても道内の判定士を含む述べ9千人弱の判定士により10万棟弱の建築物について判定が行われたところです。今年度も、下記日程で開催を予定しておりますので、皆様の積極的な受講をお待ちしております。なお、今回、更新対象の方へは直接ご案内しております。認定証の有効期限が切れている方、新規で受講希望の方は、各支部または本部事務局で配布している受講申込書*にて本部事務局へ申込みください。（支部での受付はしません。）また、開催日が未定の会場については、決まり次第、本会ホームページにてご案内いたします。

*受講申込書ほか各種様式は、本会ホームページ（<http://www.h-ab.com/>）からもダウンロードできます。

開催地	開催年月日	会場名	開催時間	
札幌市	平成24年10月10日	北海道第2水産ビル 8階会議室	13:30 ~ 15:30	
札幌市	(平成25年2月頃)	未定	午後	
函館市	平成24年11月21日	渡島合同庁舎 西棟4階402号会議室	13:30 ~ 15:30	※
せたな町	平成24年10月31日	せたな町役場 第1会議室	13:00 ~ 15:00	
倶知安町	平成24年10月30日	後志総合振興局 講堂	13:30 ~ 16:30	※
岩見沢市	平成24年11月1日	空知総合振興局 5階会議室	13:30 ~ 16:30	※
旭川市	平成24年10月29日	上川総合振興局 3階講堂	13:30 ~ 15:30	
旭川市	平成25年2月6日	上川総合振興局 3階講堂	13:30 ~ 15:30	
留萌市	平成24年10月9日	留萌振興局 講堂	13:30 ~ 17:30	※
稚内市	平成25年2月13日	宗谷合同庁舎 4階大会議室	10:00 ~ 12:00	※
網走市	平成24年11月9日	オホーツク総合振興局 3階講堂	午前	※
室蘭市	平成24年11月14日	胆振総合振興局 3階会議室	13:30 ~ 15:30	
苫小牧市	平成25年2月1日	苫小牧市 職員会館	13:30 ~ 15:30	
浦河町	平成24年12月14日	日高振興局 地下会議室	13:30 ~ 16:30	※
帯広市	平成24年11月8日	十勝総合振興局 4階A B会議室	10:00 ~ 12:00	※
釧路市	平成25年1月22日	釧路市生涯学習センター	13:00 ~ 16:00	※
根室市	平成25年1月23日	根室振興局 3階大会議室	13:00 ~ 16:00	※

※会場は、机上訓練があります。詳細は、担当（総合）振興局へお問い合わせください。

交流

平成24年度 社団法人 青森県建築士会 北五大会

大会テーマ「やっつめ！災害を乗り越える建築士をめざして」

青森県建築士会大会は、平成元年から「建築士の日」記念事業として開催され、本年は7月7日8日に五所川原市で開催されました。

大会の概要は、7日①親善ゴルフ大会②各所巡りバスツアー③まちづくりセッション④津軽鉄道真夏のストーブ列車⑤大会記念式典⑥大懇親会、8日⑦支部対抗スポーツ大会と豊富な内容です。

式典では、3支部から地域貢献活動の報告と、同日開催された「まちづくりセッション」の結果報告がありました。懇親会は、五所川原第一高等学校生徒の津軽三味線演奏で開演し、和やかな懇親会となりました。祝宴の余興として對馬北五支部長が神主に扮して「建築士試験合格祈願祭」が執り行われました。川島会長初め各支部長が神主から頂いた神饌（甘酸っぱい梅干し）を食し、会

員の合格を祈願しました。道士会として支部の青年が行っている、会員入会案内イベント等に参考になる余興でした。五所川原に行ったら、立佞武多の館の23mの「立佞武多」（右写真）は必見です。

副会長
吉木 隆



大会式典・地域貢献活動発表



高校生の津軽三味線演奏



懇親会余興・建築士試験合格祈願祭

情報委員会

副委員長

三浦 浩 (札幌支部)



情報委員会は、主にホームページ「Hab-net」の運営と本誌「北海道建築士」の発行の2本建てにて活動しています。

「Hab-net」の運営は、立ち上げから12年が過ぎ、アクセス数も年々増加し、会員の皆様にも各種情報の収集、発信の場として認識して頂けたのかと感じています。昨年からのリニューアル及び更新作業の一部を外部委託した事により、事務局と担当委員の作業負担が若干軽減されました。その分、掲載情報の収集の時間が幾分取れるようになりました。また各支部や各実行委員会等の協力もあり掲載情報量も次第に増えて来ています。

今後の予定として、度々皆様から要望のあった、士会会員作品を掲載するコーナーを作成中です。掲載作品は、Hab-net及び北海道建築士6月号にて募集しましたが、思っていたより応募数が少なめです。今後も募集を継続する予定ですので、皆様の力作をご応募願います。

本誌「北海道建築士」の発行につきましては、昨年より月毎の発行とさせて頂きました。Hab-netを閲覧する環境を持たない会員の方に対しましては、北海道建築士会からの唯一の情報提供のツールとなっているため、少しでも「旬な情報」や「最新情報」の提供が出来る様にと思いながら、編集作業をしています。月毎の発行により事務局及び担当委員の作業負担は増加しましたが、会員個々の「得る手段」による情報の格差、情報の不平等を極力無くすためには、今後も続けなければならないと感じています。

いずれにしても建築士会の情報の充実化をはかり、皆様にとって役に立つ、より良い情報提供、収集、発信の場となるように創意工夫をして行きたいと思っています。Hab-netや本誌に関する御意見、御提案を情報委員会まで是非お寄せ下さい。

尚、情報委員会は、去る8月25日に函館市にて開催された全道大会の会場内にて、Hab-netの紹介をさせて頂きました。その際に参加された皆様から建築士会としての情報のありかた、支部間のコミュニケーションや情報の発信方法などのご意見を頂きました。今後の参考とさせて頂きます。有り難うございました。

まちづくり委員会

委員長

本吉 定 (小樽支部)



今年度の事業計画で「地域におけるまちづくり活動の推進」を掲げています。

6月23日第2回まちづくりフォーラムin北見を留辺蘂にて「温泉再生とまちづくり」をテーマに開催し、4支部36名参加で7月7日オープンの日本で初めての淡水魚だけの「山の水族館」を見学した後、北見市留辺蘂総合支所主幹若杉様・温根湯観光活性化委員会委員長 黒澤様の御二人をパネリストに御招きし、留辺蘂のまちづくりと、他支部の事例を紹介しながらセミナーを開催しました。

地域の人口減少・高齢化はどこでも同じ。観光客を呼び込むにも、まず、地域の人々が元気に暮らせる地域にすることが必要で、そのためには、地域の連携とお互いが協力し合う活動サポートが重要。

地域のいいところを見つけ、地域のコミュニケーションの場を設け、無理せず継続的な活動を進めることが出来れば、人が集い新たな発想が生まれてくる。

次回からは、地域貢献活動センターで活動助成を受けた事業を事例公開し「まちづくりフォーラム」を開催したいと思います。



セミナー風景



日本初淡水魚の「山の水族館」

青年委員会

『室蘭支部青年部の活動』

副委員長

鳩澤 準一

2級建築士を取得し、建築士会に入会して早7年という歳月が過ぎようとしています。そして、今年から青年委員会副委員長と言う大役を頂き、更に日々忙しいながらも充実した日々を送っております。

さて、6月30日・7月1日は、『建築士の日』のイベントでした。この日は、青年委員会と札幌近郊の支部の方々と、『建築士の日』のイベントを行いました。2日間で来場者数341名という大成功のイベントとなりました！



『建築士の日』イベント風景

このイベントに参加して、室蘭でこのイベントを行ったら、どの位の来場者が来るのだろうか？とか、その前に、イベント会場を探すのが難しいのでは？などと室蘭支部に置き換えてしまう自分が居て、建築士会に入会して7年の間にドッブリ建築士会にのめり込んでいます。(笑)

話は変わりますが、室蘭支部青年部も年に一度、支部を上げての一大イベントがあります。それは、小学生の親子を対象とした『親子ふれあい工作室』です。毎年1校、親子で簡単な設計図を基に、木材をノコギリで切ったり、その木材に金槌を使って釘を打ち付けた

り、インパクトドライバーで木ビスを打ったりして、ベンチやプランターを製作し、木の温もりや作ることの達成感や楽しさを知って貰おうと言う企画となっております。その中で、児童や父母の方達と作業をしている内に、段々とお互いに打ち解けてきて、児童から、「どうすれば木をまっすぐに切れるの?」とか、「釘をまっすぐに打ち込むにはどうすれば良いの?」等々様々な質問責めをされながら楽しく作業を行っています。



ベンチ作成風景

苦勞して作り上げたベンチやプランターを児童達が、嬉しそうにお互いに見せ合ったり座ったりしている(中には、作業に飽きて遊び出す児童が居たり・・・)風景を見ていると、思わず笑みがこぼれてしまう自分がいます。(笑)

作業が終わり、児童や、父母の方達と話しをしていると、児童達からは、「難しかったけど楽しかった!」とか、「また今度違う物を作って見たい」などの言葉が聞けたり、父母の方達からは、「普段は子供達とこんな作業をする機会が無かった」や「今度は、自分の家で家族のみんなで作りたい。」などの嬉しい言葉をいっぱい聞く事が出来ました。参加者の作品が出来上がると、児童達に「ちびっ子建築士」の免許証を渡します。児童達が、お父さん・お母さんに誇らしげに免許証を見せる姿を見ると、今年もこの企画を実行して良かったなあ〜と、嬉しく思います。



ちびっ子建築士免許証

いつかこのふれあい教室がきっかけでこの業界に入りました!なんて出来事があれば最高の行事ですよ!!

最近、室蘭市内だけではなく登別市の小学校にもこの『親子ふれあい工作室』を実施しようかと室蘭支部青年部では、検討中です。私としては、工業高校・室蘭工業大学の学生達ともう少し建築に踏み込んだイベントが出来ないだろうか?と勝手に想像を膨らましています(笑)

こういうイベントを開催して、きっかけを作り、建築士会の事を知って貰い、興味を持って貰えたらなあ〜と思う今日この頃です。



製作したベンチに座って記念撮影

これからも室蘭支部青年部全員で、力を合わせて建築士会を盛り上げて行くぞ!!

富良野支部 毎年吞んでいます

事務局長

中村 勝利



これまでに会誌に何度か載せて頂いていますが、その都度同じ内容になってしまい申し訳なく思っております。前任から事務局長を引き継いで11年目、この間支部活動はマンネリ化し、会員の皆さまの参加意欲を失わせていることお詫びしなければなりません。

毎年、「建築士の日」記念事業として実施しております親睦ビールパーティ開催当日、本当に久しぶりにパークゴルフ大会を計画させて頂きました。期限を過ぎて3名の参加申し込みの状況、支部長自らの「電話攻撃」？が威力発揮18名の迷プレーヤーが参戦、30度を超す猛暑の中で珍プレー・好プレーが続出、私もペットボトル片手に人生2度目のパークゴルフ参加（パーク発祥の地幕別町出身なのに郷土の皆さんごめんなさい）久しぶりに運動してみました。

その夜、200名ほどの参加者により、ビールパーティが行われ、賛助会員他多くの事業所より景品の提供を頂き、恒例の抽選会が盛大に行われ、最後の特賞32型テレビを射止めた南富良野分会の永井会員の太っ腹なご厚意により再抽選させて頂き、最後まで場を盛り上げて頂きました。（永井社長ありがとうございました。）

会員の高齢化により、計画した事業の内容により参加者が減少してきておりますが「飲む」ことでは衰えは見えない会員が自分を含めまだまだおります。

交流から仲間をつくり、組織を継続させること、次の世代に残すこと。小さな支部の現状を報告させて頂きました。

石狩支部 石狩支部見学会

事務局長

末森 友美



平成24年度の見学会は、北海道工業大学新体育館視察と、北海道職業能力開発大学校 施工振動システム、静的加力システムによるデモ実験を見てきました。

北海道工業大学新体育館 HIT ARENAは2012年に完成したばかりの体育館で、環境に配慮したエネルギーを導入することで、省エネ、創エネを実現しているという学校のシンボルとなる建物です。石狩支部ではこの体育館を計画した北海道工業大学の佐藤孝先生にお願いして、視察をさせていただきました。この体育館は「真ん中を広場のようにして周りを囲み、スポーツをする人だけが使うのではなく、一般の学生たちも見て楽しめる空間をつくらうと考えた」という事で、建物のデザインも素晴らしく、施設の内容も充実していて、このような体育館を視察できてとても良かったと思える建物でした。

北海道職業能力開発大学校では施工振動システムは3層振動にモデルによる振動実験、静的加力システムは耐力壁の面内せん断試験、を見せていただき、良い研修ができました。

この日は研修後に石狩支部の村田さんが経営してる石狩浜の「マウニの丘」で懇親会を行いました。夕日を見ながらの食事はとても素敵で、とてもお勧めなお店でした。



日高支部

For the Future

青年委員長

森 勝利



日高支部は、日高町、平取町、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町の7町に居住または勤務している建築士で構成されています。

会員数は125名ですが、いわゆる40歳未満の青年会員（正会員）は、たった10名です。

当支部の7町はもとより、小規模自治体に共通して言えることですが、働き盛りの青年建築士は、会社では「専務」であり、会社はもとより、従業員やその家族のために経営に尽力しています。

また、地域では「戦力」であり、それぞれのまちで行われる様々な活動の中核を担っています。

そんな忙しさの合間を縫って、さらに、会社の理解を得て、士会の活動に参画するのは、たいへん厳しいと思いますが、これからも少数精鋭で、無理のない程度に、できることをやっていきたいと考えています。

そんな青年の取り組みとして、例年、子どもたちを対象に「ほくのいえ・わたしのいえ」をテーマとした絵画コンクールを草の根活動として行っています。

今年からは、管内の29の小学校すべてを対象に行います。

『子どもの頃、絵画コンクールに応募しました！』という青年建築士が加わる日を夢見て・・・



CPD認定プログラム（8月認定）

- ◆**景観スペシャリスト養成講座—2012—**
 景観から“まちづくり”を考える編
 第3回景観整備機構による景観まちづくりと人づくり
 《日程及び会場》 9月25日(火) 18:30~20:30
 かでる2・7(札幌市)
 《単位数》 2単位
 《問合せ先》 (社)北海道建築士会札幌支部
 TEL 011-232-1843
<http://www.hks-hp.net/>
- ◆**北海道公共建築設計セミナー（第1回）**
 《日程及び会場》 9月3日(月) 14:00~16:00
 札幌第一合同庁舎(札幌市)
 《単位数》 2単位
 《問合せ先》 北海道開発局
 TEL 011-709-2311(内5742)
http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_eizen/eizenfes.html
- ◆**建築士の選び方、選ばれ方**
 《日程及び会場》 9月27日(木) 18:00~20:00
 かでる2・7(札幌市)
 《単位数》 2単位
 《問合せ先》 (社)北海道建築士会札幌支部
 TEL 011-232-1843
<http://www.hks-hp.net/>

まちづくり委員会からのお知らせ
《景観整備機構セミナーのご案内》
 CPD認定研修 2単位

景観法に基づく景観整備機構に関する理解を深め景観まちづくりに建築士(会)はどう関わり、専門家としてどのような方向をめざしていけばいいのか、を考えるセミナーを開催します。

- 日時：9月25日(火) 18:30~20:30
 場所：「かでる2・7」720研修室
 札幌市中央区北2条西7丁目道民活動センタービル7階
 講師：塩見 寛氏
 静岡県建築士会景観整備機構 副代表
 (建築士会報誌「建築士 2012年2月号」p25~29掲載)
 テーマ：「景観整備機構による景観まちづくりと人づくり」
 受講費：建築士会会員 ¥500(賛助会員も同様)
 その他一般 ¥600
 学生 無料
 問合せ先：(社)北海道建築士会札幌支部 まちづくり委員会
 FAX 011-232-1843
 メール hksj@iris.ocn.ne.jp
 *電話による問い合わせにはお応えできません
 (社)北海道建築士会・(社)北海道建築士会札幌支部 共催

編集後記

オリンピックの閉幕と共に秋の気配となりましたが、東日本大震災以降、毎日のように節電対策の話題を目にしています。私の周囲でもこの夏は自然の風で乗り切る工夫やこまめな節電を心がけていましたが、ひとたび街中の飲食店に入ると寒いぐらいの冷房が。何やら矛盾を感じますが、節電意識が高まっているのも事実でしょう。先人の知恵と環境に配慮した技術革新の両翼が、復興を支え安心安全の未来につながると信じたいものです。
 情報委員会 森田ゆう子

図書案内

- 2011
実務に役立つ寒地住宅性能向上リフォームのポイント
 ◎第54回寒地建築技術講習会テキスト
 ◎A4判・68頁 ◎定価：2,500円
 ◎発行日：2011年刊
 ◎発行：(社)北海道建築士会
- 2010
実務に役立つ寒地住宅の環境整備のポイントと解説
 ◎第53回寒地建築技術講習会テキスト
 ◎A4判・68頁 ◎定価：2,500円
 ◎発行日：2010年刊
 ◎発行：(社)北海道建築士会
- 2009
実務に役立つ寒地住宅設計・施工監理のポイント
 ◎第52回寒地建築技術講習会テキスト
 ◎A4判・81頁 ◎定価：2,500円
 ◎発行日：2009年刊
 ◎発行：(社)北海道建築士会
- 民間(旧四会)連合協定 工事請負契約約款(平成23年5月改正)**
 ◎A4判・14頁 ◎定価：700円
 ◎発行：民間(旧四会)連合協定 工事請負契約約款委員会
- 建築設計・監理等 業務委託契約書類**
 ◎A4判 ◎定価：1,200円/会員価格：900円
 ◎発行：四会連合協定建築設計・監理 業務委託契約約款改正委員会
- 改正建築士法による重要事項説明のポイント**
 編集＝重要事項説明内容等検討会
 ◎A4判・80頁 ◎定価：1,300円
 ◎発行：(社)日本建築士事務所協会連合会 平成21年10月25日改訂版
- 実務に役立つ建築法規解説2011**
 編集＝全道建築行政連絡会議
 ◎第45回建築基準法講習会テキスト
 ◎A5判 ◎定価：3,000円

情報委員会委員長／岡田 隆
 副委員長／三浦 浩・天城 秀典・神田 光英
 委員／森田ゆう子・岡田 光弘・山下 聡
 用田 史門・高松 徹・道塚 勉

北海道建築士 No.181号

印刷 平成24年8月／発行 平成24年9月

編集・発行 社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
 大五ビル
 電話 (011)251-6076番
 URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011)811-7151番